

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

5 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究

[総合評価とコメント]

廃棄物最終処分場は、建設時の合意形成の困難性ばかりが目されるが、実際に設置された処分場の埋立完了後の廃止の作業も重要性が高い。

本課題は、廃止に向けて安定化を図る際の維持管理手法を検討することを目的としており、特にキャッピングの効果に注目している。

26 年度に既にかんりのデータが得られているが、キャッピング前後のデータの比較は、有用な知見が提供されることが期待される。

過去のデータの解析が遅れているという報告があったので、最終年度に向け、体制強化を図りたい。

社会的ニーズは非常に高い課題。共同研究を行っているところも意義が高いと思われる。福井の処分場の埋め立て物と浸出水の比較も解析に含めてはどうか。

処分場の運営主体との協力の上でしか実行できない研究テーマである。また、日本全体としても重要な課題であるので、県のセンターとして取り組む意義は大きいと認識する。

雨により浸出水の流出状況が大きく変化するので、雨の後の時間間隔を狭めた調査を計画すべきではないかと考えた。

最終的にキャッピングの効果が評価できる研究成果を期待する。

労力との関係があり困難かとは思いますが、浸出水中の化合物については、より対象を広めることができると良いと考える。

2 年の計画だが、重要な研究テーマであるので、何らかの形で継続的な調査研究にすることを検討して欲しい。

産業廃棄物最終処分場の早期安定化に向けたモニタリングの検討を行っており、神奈川県内のみならず、重要な成果が期待される。これまでの観測データも、蓄積が進んでおり、今後の解析が深められることを望む。併せて、キャッピングを実施した際の最終処分場内部の変化(ガス、水質等)についての検討例はなく、貴重なデータが収集されている。こちら継続的な調査により、長期挙動が解明されると推測される。共同研究との連携で、大きく異なる埋立物の処分場との対比も有益な情報が得られると考えられる。降雨の影響も見られることから、簡易連続測定できる項目などを測定することで、汚濁物質の短期的流出挙動を確認するなど、細かな対応も期待したい。

(数値的評価)

評価者 4 名

評価の内容	評価項目	ランク
課題設定の妥当性	背景と必要性	5 (2 人) 4 (2 人) 3 (0 人) 2 (0 人) 1 (0 人)
	優先性	5 (1 人) 4 (3 人) 3 (0 人) 2 (0 人) 1 (0 人)
計画の立案と実施方法	研究内容	5 (0 人) 4 (4 人) 3 (0 人) 2 (0 人) 1 (0 人)
	計画の妥当性	5 (0 人) 4 (4 人) 3 (0 人) 2 (0 人) 1 (0 人)
研究の進捗状況	進捗状況	5 (0 人) 4 (3 人) 3 (1 人) 2 (0 人) 1 (0 人)

ランクは、5 点満点の評価で 5 (優) ~ 1 (劣)